

# 第41回 宮崎整形外科懇話会 プログラム

日時：平成12年12月16日（土）14：30開会  
会場：宮崎観光ホテル（東館2F 日向の間）  
☎880-8512 宮崎市松山1-1-1 TEL 0985-27-1212）  
会長：田島直也  
宮崎医科大学整形外科学教室

共催 宮崎整形外科懇話会  
住友製薬株式会社

## 参加者へのお知らせ

14:00～受付

1. 参加費；会場受付で申し受けます。 1,000円
2. 年会費；未納の方は受付で納入をお願いします。 5,000円
3. 全員懇親会参加費（詳細は目次を御参照下さい） 2,000円

## 演者へのお知らせ

1. 口演時間；一般演題・1題5分、討論3分  
；主 題・1題6分、討論4分程度とします。
2. 口演用スライド；単写とします。演者は講演30分前までにスライド受付に御提出下さい。

## 世話人会のお知らせ

14:00～14:30 東館2F 初雁の間

## 特別講演のお知らせ

17:00～18:00

『日常の手の外傷の診断と治療』

札幌医科大学 整形外科学教室 石井清一 教授

註 上記講演は、日本整形外科学会教育研修会（1単位）  
（認定番号 00-0831-00）に認定されておりますので御参加下さい。  
日本整形外科学会の研修手帳をお持ちの方は御持参下さい。  
尚、受講料は1,000円です。

## 事務局

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原 5200  
宮崎医科大学整形外科学教室内 担当 黒木 龍二  
TEL 0985-85-0986（直通） FAX 0985-84-2931

14:30 開 会

14:30~15:15 一般演題Ⅰ

座長 木屋 博昭

1. 柔道による小児外傷性股関節脱臼の1例  
宮崎医科大学 整形外科 田島卓也、ほか
2. 腓骨筋断裂により生じた下腿外側コンパートメント症候群の一例  
宮崎市郡医師会病院 整形外科 河野 立、ほか
3. 肘に発症した滑膜性骨軟骨腫症の1例  
県立延岡病院 整形外科 市原久史、ほか
4. Universal LCS型人工膝関節の短期成績  
国立都城病院 整形外科 坂本康典、ほか
5. リン酸カルシウム骨ペーストを併用した人工膝関節再置換術の経験  
市民の森病院 整形外科 益山 松三、ほか

15:15~16:00 一般演題Ⅱ

座長 魏 國雄

6. 透析患者に対する鏡視下手根管開放術後  
手掌に巨大水疱形成を生じた1例  
(医) 康仁会谷村病院 谷脇功一、ほか
7. 橈骨楔状骨切りを行ったキーンベック病の3例  
県立日南病院 整形外科 川添浩史、ほか
8. 自然治癒した急性頸椎硬膜外血腫の2例  
済生会日向病院 整形外科 河原勝博、ほか
9. 腰椎変性疾患における椎間関節の形態学的検討  
県立宮崎病院 整形外科 有蘭 剛、ほか
10. 当科における最近の側弯症診療状況と治療プログラム  
宮崎医科大学 整形外科 黒木浩史、ほか

16:00～16:50 主題：手の外傷 座長 黒木 龍二

- 1 1. 経舟状骨月状骨周囲脱臼の1例  
県立延岡病院 整形外科 東 高弘、ほか
- 1 2. 青壮年橈骨遠位端骨折の観血的治療  
宮崎市郡医師会病院 整形外科 塩月康弘、ほか
- 1 3. 小指PIP関節橈側側副靭帯損傷に対する治療経験  
宮崎医科大学 整形外科 村上恵美、ほか
- 1 4. 指動脈島状皮弁の検討  
一問題点について一  
宮崎社会保険病院 形成外科 藤林久輝、ほか
- 1 5. 上肢外傷性末梢神経損傷に対する手術例の検討  
宮崎市郡医師会病院 整形外科 神園 豊、ほか

☆☆☆ 休憩 ☆☆☆

17:00～18:00 特別講演

18:00 閉会

### 全員懇親会のお知らせ

宮崎整形外科懇話会も今回で41回目の開催となり20周年を迎えることとなりました。それを記念致しまして研究会終了後に懇親会を行ないますので、ぜひ、御参加下さい。  
参加費は2,000円、会場は『紅の間（東館2F）』です。

# 開 会 ( 1 4 : 3 0 )

## 一般演題 I ( 1 4 : 3 0 ~ 1 5 : 1 5 )

座長 木屋 博昭

### 1. 柔道による小児外傷性股関節脱臼の1例

宮崎医科大学 整形外科

○田島 卓也 園田 典生 帖佐 悦男

田島 直也

橘病院 整形外科

柏木 輝行 矢野 良英

【はじめに】比較的まれとされるスポーツ外傷による小児股関節脱臼を経験したので文献的考察を加え報告する。

【症例】症例は6歳5ヶ月の女児で、柔道歴は3年である。平成12年6月12日に柔道の練習中に8歳男児との乱どり中に内またをかけられ、右臀部より倒れ、直後より右股関節痛および立位不能となったため、当院に搬送された。

初診時には右下肢内旋、屈曲位を呈し、立位歩行不能であった。X線所見では、明らかな骨折は認められず、右股関節後方脱臼を認めた。受傷後約3時間後にイメージを用いて愛護的に徒手整復を行った。整復後のCTでも臼蓋および大腿骨に骨傷は認められなかった。入院後、介達牽引を3週間行い、2本杖完全免荷歩行を開始した。

【考察】小児の外傷性股関節脱臼はまれであり、スポーツにより発生する例はきわめて少ない。外傷性股関節脱臼の合併症としては、骨頭壊死、再脱臼、骨端線離開、coxa magna、変形性関節症などがあり、今後定期的診察、MRI等の画像検査によるfollow upが必要であると思われる。

### 2. 腓骨筋断裂により生じた下腿外側コンパートメント症候群の一例

宮崎市郡医師会病院 整形外科

○河野 立 塩月 康弘 神蘭 豊

右下腿外側コンパートメント症候群の一例を経験したので、若干の文献的考察を含め報告する。

症例は28歳、男性。ソフトボールの試合中に右足関節を捻挫し、その後も運動を続けていたが、徐々に右下腿外側の疼痛が増強し、急病センターを受診した。

初診時、腰部椎間板ヘルニアを疑われ、鎮痛剤の処方を受け帰宅した。しかし、疼痛は増悪するのみで軽快しなかったため再受診することとなった。

再診時、外側コンパートメントに一致して、腫脹、発赤、圧痛を認め、総腓骨神経支配領域の知覚低下、さらにTA、EHL、EDLの筋力低下を認めた。内圧測定を行ったところ、60cm H<sub>2</sub>Oであり、コンパートメント症候群の診断にて筋膜切開術を施行した。

術後、現在経過観察中であるが、知覚、運動ともに回復傾向を認めている。

### 3. 肘に発症した滑膜性骨軟骨腫症の1例

県立延岡病院 整形外科

○市原 久史 木屋 博昭 弓削 孝雄  
藤本 徹 田口 学 東 高弘  
西里 徳重

【症例】70才 男性

【現病歴及び経過】H12年5月頃より右肘後内側の腫脹出現したため近医受診。レ線上異常を認めたため、6月当院紹介受診。レ線上腫瘤内に点状の石灰化、骨膜反応等を認めたためMRI施行した。T1にて低信号、T2にて高信号を示し、悪性も考慮されたため精査目的にて入院となった。生検後、肉眼所見及び病理組織にて滑膜性骨軟骨腫症の診断に至った。その後遊離体摘出術を行い、術後4ヶ月の現在再発は認めていないが、残存している可能性もあり今後注意深く経過を観る必要があると思われる。

### 4. Universal LCS型人工膝関節の短期成績

国立都城病院 整形外科

○坂本 康典 税所幸一郎 深野木快士

【目的】大腿、脛骨コンポーネント間に移動可能なメニスカスを有するLow Contact Stress (以下、LCS)人工膝関節は、回旋や屈曲の自由度が多く、他の機種に比べ大きな可動域が得られると考えられる。今回我々はLCS人工膝関節を用いた症例にて、短期ではあるが良好な成績を得たので報告する。

【対象および方法】当院にて1999年1月から11月までの11ヶ月間にLCSを使用した12例、14関節を対象とした。疾患別にはRA10関節、OA4関節で男性2関節、女性12関節であった。手術時の年齢は平均65.6才、平均観察期間は17.1ヶ月であった。評価の方法として日整会膝関節機能評価 (JOA score) を用い、膝可動域およびX線変化について検討した。

【結果】JOA score に関して術前 $42.5 \pm 9.9$ 点から術後 $84.6 \pm 9.1$ 、膝屈曲に関して術前 $113.9 \pm 23.0$ から $117.1 \pm 13.0$ と改善がみられた。またX線変化に関しては沈みこみや2ミリ以上の緩みはなかった。

【考察】LCS型人工膝関節はメニスカル・インサートが前後あるいは回旋方向に動くことによりインプラント間の低い接触圧と高い可動性が保たれると考えられる。今回短期の結果ではあるがLCS型人工膝関節はADLの向上と良好な膝屈曲が得られた。人工関節の性質上、今後とも注意深い観察が必要と思われる。

## 5. リン酸カルシウム骨ペーストを併用した人工膝関節再置換術の経験

市民の森病院 整形外科

○益山 松三 桑原 茂 金井 純次

篠原 典夫 木村 千仞

大平整形外科内科医院

大平 卓

慢性関節リウマチに対する人工膝関節置換術の普及に伴い、再置換術を必要とする症例が増えてきている。今回我々は再置換術時にリン酸カルシウム骨ペーストを併用することにより良好な短期術後成績を得たので報告する。

症例1：57才女性。37歳時、慢性関節リウマチ発症。平成6年1月に近医にてTKA施行され、経過観察されていたが、脛骨コンポーネントのlooseningを認め、再置換術目的にて12年6月当科紹介入院した。再置換術施行時にリン酸カルシウム骨ペーストを併用し、術後の症状、X線経過とともに良好である。

一般演題Ⅱ（15：15～16：00）

座長 魏 國雄

## 6. 透析患者に対する鏡視下手根管開放術後

手掌に巨大水疱形成を生じた1例

（医）康仁会谷村病院

○谷脇 功一 市原 正彬 関本 朝久

渡部 正一

鏡視下手根管開放術は従来の手術による皮膚創の突っ張りや疼痛、屈筋腱の癒着や脱臼、術後血腫等のトラブルを最小限度に出来るという目的で最近盛んに施行されるようになった。特に透析患者に対して最小侵襲による術後血腫の予防やシャント側に空気止血帯を使わずに手術可能という利点を挙げ、安全であるという意見もある。今回鏡視下手根管開放術後に手掌に巨大な水疱形成をみた症例を経験したのでその原因について検討した。

【症例】Y. H. 61y. M.

【診断名】右手根管症候群 維持透析

【主訴】右手掌の水疱

【原病歴】H12.9.12、鹿児島某医にて鏡視下手根管開放術を受ける。術翌日圧迫帯を除去すると手掌中央に水疱形成がみられ、日に日に大きくなっていった為、H12.9.16（術後4日目）に当院受診する。

## 7. 橈骨楔状骨切りを行ったキーンベック病の3例

県立日南病院 整形外科

○川添 浩史 長鶴 義隆 松岡 知己  
江夏 剛

キーンベック病に対する橈骨楔状骨切りの有効性についてはこれまでも報告が散見される。今回ほぼ同時期に3例のキーンベック病を経験し、それらに対し橈骨楔状骨切りを行った。術後1年以上の経過観察を行い、良好な結果を得ており、文献的考察を加え報告する。

【対象】症例は3例とも20歳代の女性。いずれも患側は左で、右利きであった。強い手関節痛と可動域の制限、そのための日常生活への支障を訴え受診している。初診時Stage3-aであった。これらに対し、橈骨楔状骨切りを施行。後療法は6週間の外固定の後可動域訓練等開始した。

【結果】臨床的には術後1年以上を経過し、1例に最大背屈時の軽度の痛みを残しているが、2例では手関節痛は消失し、いずれの症例でも患者の満足度は高い。X線学的には月状骨の扁平化の程度に大きな変化は無いが、仮骨形成などの改善傾向がみられる。

## 8. 自然治癒した急性頸椎硬膜外血腫の2例

済生会日向病院 整形外科

○河原 勝博 酒井 健 森田 信二

急性脊髄硬膜外血腫は希な疾患である。以前は早期診断し外科的治療を行うことが必要とされてきた。しかし、近年自然治癒例の報告が見られるようになった。今回我々は急性の頸椎硬膜外血腫の自然回復例を2例経験したので文献的考察を加え報告する。

【症例1】69歳男性、突然両上下肢の筋力低下と痛みにて当院受診。頸椎MRIにてC4~6の硬膜外血腫と診断。翌日には下肢筋力の改善認め以後保存的治療を行った。

【症例2】59歳男性、突然背部から右肩への激しい痛みと筋力低下が出現、近医より紹介され来院。頸椎MRIにてC6、7の硬膜外血腫と診断。翌日より右上肢の筋力の改善を認め保存的治療を行った。

【考察】麻痺が軽度で24時間以内に回復傾向を見せたもの、また発症時完全麻痺に近いものでも6~7時間以内に回復傾向があるものは自然治癒の可能性が高く保存的治療の適応と思われる。



## 9. 腰椎変性疾患における椎間関節の形態学的検討

県立宮崎病院 整形外科

○有菌 剛      小林 邦雄      徳久 俊雄  
高妻 雅和      阿久根広宣      中山 功一  
海田 博志      由布 竜矢

【目的】連続する複数のCTを用いて腰椎変性疾患の椎間関節の形状を立体的に検討したので報告する。

【対象及び方法】対象は腰椎変性すべり症33例(平均63.6歳)、腰部脊柱管狭窄症46例(平均66.1歳)、腰部症状の無い症例21例(平均48.9歳)の合計100例である。椎間板に平行に撮影したCTをスキャナーにてコンピューターに取り込み、NIH imageを用いて第5腰椎上関節突起の形態学的特徴を検討した。

【結果】すべり群の椎間関節開き角はその他の群と比べて有意に大きかった ( $p<0.05$ ) が、その他の指標では各グループ間に統計学有意差は認められなかった。

【考察及び結論】腰椎変性すべり症における椎間関節の形状については、これまで関節面の矢状化ばかりが強調されてきた感がある。今回は複数のCTを用いることによってすべり群では取り分け関節面近位側での矢状化が強い傾向にあることが明らかとなった。

## 10. 当科における最近の側弯症診療状況と治療プログラム

宮崎医科大学 整形外科

○黒木 浩史      田島 直也      後藤 啓輔  
有住 裕一      栗原 典近      小菌 敬洋

【目的】当科における最近の側弯症診療ならびに治療状況を調査しその傾向と問題点について検討すること。

【対象と方法】平成11年1月から平成12年10月の間に当科側弯症外来を初診した患者100例を対象とした。性別は男17例、女83例、平均年齢は13歳2ヶ月であった。以上の対象について疾患の内訳、受診のきっかけ、変形の程度そして治療方法を調査した。

【結果】疾患は特発性90例、先天性5例、症候性5例で検診による受診が66%を占めていた。major curve の初診時平均Cobb角( $10^\circ$  未満を除く)は特発性 $28.4^\circ$ 、先天性 $40.8^\circ$  (計測不能例1例を除く)、症候性 $44.4^\circ$  で、初診時すでに $50^\circ$  以上を示した症例が7例存在した。治療は特発性の32例、先天性、症候性の各1例に装具を処方した。手術を施行した症例はなかった。また特発性における外来のdrop out率は23.7%であった。

【考察】検診の定着にも拘わらずいまだに初診時進行例も存在していたこと、drop out率が高かったことが問題点として挙げられた。治療の主体は装具療法であり十分な指導を含めた適切な施行が重要である。

主題：手の外傷（16：00～16：50） 座長 黒木 龍二

## 11. 経舟状骨月状骨周囲脱臼の1例

県立延岡病院 整形外科

○東 高弘

田口 学

木屋 博昭

舟状骨骨折を伴う月状骨周囲脱臼は比較的稀であり、その診断を見落とされることもある。またその治療に関しても、手術のアプローチは掌側か背側か意見の分かれるところであり、新鮮例と陳旧例で骨接合・靭帯再建などにそれぞれ違いがみられる。

症例は18歳、男性。ラグビーの練習中に受傷、翌日紹介・受診。舟状骨・三角骨骨折に月状骨と舟状骨の近位部の掌側脱臼を伴う新鮮例である。橈・尺関節脱臼も合併していた。

手術は掌側から脱臼部分を整復し舟状骨はHerbert screwにて固定し月状骨、三角骨はピンニングを行った。脱臼により断裂した靭帯については可及的に縫合した。さらに橈・尺関節脱臼に対してもピンニングを行った。診断に際しては、単純X線だけでなく、手根骨断層撮影、CTや機能写などで手根骨の十分な情報が必要である。また、治療に関しては掌側アプローチが視野がよく、解剖学的な位置に正確に整復・固定することが大切である。

そして何より手根骨周囲の外傷・骨折に対して、月状骨周囲脱臼を見落とさないように注意することである。

## 12. 青壮年橈骨遠位端骨折の観血的治療

宮崎市郡医師会病院 整形外科

○塩月 康弘

神菌 豊

河野 立

【目的】転位を伴い手術療法を要した青壮年の橈骨遠位端骨折の治療成績と骨折型との関連、及び手術適応について検討したので若干の文献的考察を加え報告する。

【対象と方法】対象は1999年1月以後当院にて観血的治療を行った9例10手で、男性4例、女性5例、平均年齢55.4歳（16歳～68歳）、平均経過観察期間11.7ヶ月（3ヶ月～20ヶ月）であった。骨折型は斉藤の分類で粉碎Colles型7手、粉碎Smith型1手、Colles型2手であった。

術式はピンニング5例、プレート1例、創外固定+骨移植+ピンニング4例であった。治療成績は斉藤の評価基準を用いた。

【結果】治療成績はExcellent 3例、Good 5例、Fair 2例であった。合併症として手指の拘縮が1例に見られた。粉碎Colles型で骨移植を行ったにもかかわらずlate collapseが1例に発生していた。

### 13. 小指PIP関節橈側側副靭帯損傷に対する治療経験

宮崎医科大学 整形外科

○村上 恵美 黒木 龍二 園田 典生

矢野 浩明 山本恵太郎 田島 直也

えびの市立病院 整形外科

谷島 満

PIP関節側副靭帯損傷はスポーツや転倒時など日常よく起こる障害である。今回我々は、手術的治療を施行した小指PIP関節橈側側副靭帯損傷の4例を経験したので報告する。

【症例】症例は4例で、全例男性、年齢は15～39歳(平均24.5歳)、受傷機転は全例スポーツ活動中(バレーボール、柔道、ラグビー)で、受傷から手術までの期間は、5～19日(平均11日)であった。

【手術法】手術はpull-out法の縫合糸を対側の骨膜上で結ぶ方法(以下pull-out変法)を行った症例が3例、端々縫合を行った症例が1例であった。

【結果】全例とも疼痛および可動域制限なく、スポーツ活動に復帰している。

【まとめ】不安定性の強いPIP関節橈側側副靭帯損傷に対しては、手術的治療が必要であり、今回施行したpull-out変法は有効な治療法の一つといえる。

### 14. 指動脈島状皮弁の検討 一問題点について一

宮崎社会保険病院 形成外科

○藤林 久輝 横内 哲博

指軟部組織欠損の再建法には様々な手術法があるが、中でも指動脈を茎とする皮弁である指動脈島状皮弁は十分な皮膚軟部組織量の再建ができ、知覚の回復といった機能面のみならず整容面でも優れている。我々は、外傷における指軟部組織欠損に対して積極的にこの術式を選択しているが、症例を重ねるうちに、様々な問題点が浮かび上がってきた。

今回、この指動脈島状皮弁の症例を検討するとともにその問題点について考察したので、報告する。

## 15. 上肢外傷性末梢神経損傷に対する手術例の検討

宮崎市郡医師会病院 整形外科      ○神菌 豊      塩月 康弘      河野 立

【はじめに】外傷性末梢神経損傷は上肢、特に手の外傷にしばしば合併するが、知覚神経損傷は、運動麻痺を生じないため機能障害が比較的軽度で、修復術を行っても回復に時間を要し、最後までフォローされない場合が多い。混合神経、知覚神経断裂修復後の運動及び知覚機能回復状況の調査が今回の目的である。

【対象と方法】対象は平成11年1月から12年6月までに当科で手術を行った外傷性末梢神経断裂症例11例16神経である。神経別では橈骨神経3例（内1例は浅枝のみ）、尺骨神経2例、正中神経1例、他は全て指神経であった。受傷時年齢は16才から67才、全例男性であった。手術は全例、2.5倍のルーペ下に行い、修復術が13神経、神経移植術が3神経でdonorには自家腓腹神経を用いた。

【結果】全神経において有効な運動あるいは知覚機能の回復を認めた。成績に影響を及ぼす諸因子について考察する。

☆☆☆ 休 憩 ☆☆☆

特別講演（17：00～18：00）      座長      田島 直也

『日常の手の外傷の診断と治療』

札幌医科大学 整形外科学教室

石井 清一 教授

閉 会